

世界 LNG 動向#116 2025 年 8 月

橋本裕*

はじめに

インドネシア Abadi プロジェクトがデュアル FEED に進む。8 月初旬、日本の INPEX は Masela 鉱区 Abadi LNG プロジェクトで基本設計作業 (FEED) を発注。このうち、天然ガス液化プラント、洋上生産出荷施設 (FPSO) については、それぞれ 2 つの企業連合が並行して実施する「デュアル FEED」方式を採用している。

8 月も引き続き米国 LNG 輸出プロジェクトの進展が目立つ。Cheniere Energy 社は、ルイジアナ州 Sabine Pass LNG 設備で 3 液化系列・合計容量年間 2000 万トンの追加拡張計画を FERC (米連邦エネルギー規制委員会) 申請済みである。テキサス州 Corpus Christi LNG 設備で、CCL Stage 3 プロジェクト第 1・2 系列年間 300 万トン分が稼働済みで、年間 700 万トン分が建設中である。さらに追加 2 系列合計容量年間 500 万トン分 (CCL Midscale 8 & 9) が 6 月の FID (最終投資決定) で建設開始となった。加えて追加総容量年間 2400 万トン CCL Stage 4 プロジェクトが FERC でのプレファイリング (事前審査) 手続きを開始した。Sempra 社はテキサス州ジェファーソン郡 Port Arthur LNG フェーズ 2 開発プロジェクトについて 5 月に非 FTA (米国と自由貿易協定を持たない諸国向け) 輸出承認を DOE (米エネルギー省) から受け、7 月末に年間 150 万トンの供給に関して JERA と 20 年間 SPA (売買契約) を締結した。2025 年中の FID を目標としている。

Venture Global 社 CP2 フェーズ 1 建設、フェーズ 2 FID に前進。CP2 プロジェクトのフェーズ 1 は、7 月末の FID 後、本格 EPC (エンジニアリング・調達・建設) へと前進している。さらに 2026 年のフェーズ 2 FID に向け、長期 SPAs (売買契約) 締結を進めていることを明らかにしている。同社は同プロジェクトの両フェーズで年間 2800 万トンの LNG を生産できるとしている。LNG 生産開始は 2027 年を見込んでいる。

NextDecade 社は、Rio Grande 第 1-3 系列順調な進捗を報告。第 4、5 系列について、9 月半ばの FID を目指して、エンジニアリング、ファイナンス商談を進めているとしている。特に第 4 系列について TotalEnergies・GIP (Global Infrastructure Partners) による出資参加、資金調達へのコミットメントを明らかにした。テキサス州 Texas LNG プロジェクトは、7 月末の FERC による最終追加環境影響評価 (FSEIS) を受けて、FERC 最終指令は 11 月、FID は 2025 年末までを目標としている。今回の発表によると、Texas LNG は、FID 到達に十分な数量の買主引き取りコミットメントを確保しているという。ルイジアナ州 Commonwealth LNG プロジェクトは同様に 2025 年下半年期 FID、2029 年 LNG 生産開始を見込んでいる。8 月は、建設前の初期的な用地準備作業に着手することに関して承認を求める申請を FERC に提出、DOE からは非 FTA 諸国向け輸出承認を受けた。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

欧州企業が米国天然ガス市場でガスを長期契約で調達。7 月末、カナダ Tourmaline 社がドイツ Uniper 社と、年間 57 万トン規模、8 年間の LNG 原料ガス供給契約を締結。8 月中旬、英 Centrica 社が米 Devon Energy 社と、年間 35 万トン規模 10 年間の天然ガス SPA を締結した。

[アジア太平洋]

東京ガス株式会社は、2025 年 8 月 7 日、自社独自のレーザー式メタン検知技術を用いた自然環境下におけるメタン濃度の簡易計測・可視化の実証研究を開始したことを発表した。

ENEOS Xplora 株式会社は、2025 年 7 月 31 日、中条事業所（新潟県）にて、日本国内の石油・天然ガス生産操業現場で初めて、LiDAR 〈Light Detection and Ranging の略、レーザー光を照射し、その反射光が戻ってくるまでの時間を計測することで、対象物までの距離や形状を正確に測定する技術〉技術を用いた固定式連続モニタリングによるメタンガス排出量の可視化に関する実証試験を実施したことを発表した。

千代田化工建設株式会社は、2025 年 8 月 8 日、西部ガス株式会社向けひびき LNG 基地能力増強に係るプラント設備 EPC 業務を受注したことを発表した。

韓国ガス公社 (KOGAS) は、2025 年 8 月 25 日、Trafigura を含む複数の供給者と、複数の LNG 輸入契約を締結したことを発表した。この発表によると、KOGAS は米国からを中心として追加年間 330 万トンを、2028 年から 10 年間程度輸入する計画である。KOGAS-Trafigura 長期契約の数量は、Cheniere 社が操業するテキサス州 Corpus Christi を含む複数の LNG プロジェクトに基づき供給されることとなる。2024 年から長期 LNG 契約の国際入札を追求してきた KOGAS は、複数の供給者から競争力ある価格を確保したとしている。

韓国サムスン重工 (SHI) の証券市場規制機関への 2025 年 8 月 18 日付提出書類によると、LNG 輸送船舶 6 隻新造を受注した。1 件目の取引はオセアニアの船主との取引で、4 隻を 2028 年 11 月までに引き渡すものである。もう 1 件もオセアニアの船主との取引で、2 隻を 2028 年 1 月までに引き渡すものである。

中国の貿易統計発表によると、2025 年 1 - 7 月のパイプラインガス・LNG 合計の天然ガス輸入量は、7014 万トンと、前年同期 7536 万トンから 6.9%減となった。LNG 輸入量は、2025 年 1 - 7 月で 3551 万トンとなり、2019 年以来的の低水準である。

中国の国家统计局 (NBS) は、2025 年 8 月 15 日、1 - 7 月の天然ガス生産が前年同期比 6%増の 152.5 bcm (1525 億 m³) に達したことを発表した。7 月は前年同月比 7.4%増の 21.6 bcm (216 億 m³) だった。

Sinopec (中国石化) は、2025 年 8 月 22 日、同年上半期業績を公表した。四川盆地地域における大深度シェールガス開発、海域における主要天然ガス生産容量の拡大を強調した。石油・ガス生産量は 2.6281 億バレル相当で前年同期比 2%増となった。天然ガス生産は 736.28 bcf (1514 万トン)、前年同期比 5.1%増となった。

川崎重工は、2025 年 8 月 1 日、台湾最大手のエンジニアリング会社である中鼎工程股份

有限公司 (CTCI) とのコンソーシアムで、台湾プラスチックグループ (FPG) の一員である台塑石化股份有限公司 (FPCC) が雲林県麥寮の台塑麥寮工業地区で計画する「麥寮 LNG 受入基地 LNG タンク EPC (設計・調達・建設) 業務」を受注したことを発表した。2029 年中頃の完成を予定している。今回受注した設備は、容量 160,000 m³ の地上式 LNG タンク 2 基と LNG 払い出しポンプ、低温配管等の付帯設備から構成される。本契約は、台湾で初めて民間企業により建設・運営される LNG 受入基地の一部であり、2029 年の年末には台湾電力 (TPC) へ電力が供給される予定。

ベトナム PetroVietnam Gas (PV Gas) は、2025 年 8 月 26 日、2027 年から 2031 年、DES または FOB 条件で、Thị Vải 基地向けに、LNG 年間 20,700,000 (100 万 Btu) (6 カargo) 供給の 5 年間ターム契約を求めていることを通知発行した。テクニカル提案の提出期限を 2025 年 9 月 24 日としている。

シンガポール PIL (Pacific International Lines) 社は、2025 年 8 月 11 日、自社として同国で初のカーゴ荷役と LNG バンカリング並行実施 (SIMOPS) を行ったことを発表した。

株式会社 INPEX は、2025 年 8 月 4 日、株式会社 INPEX マセラを通じて操業主体 (オペレーター) を担うインドネシア共和国アラフラ海 Masela 鉱区 Abadi LNG プロジェクトにて、基本設計作業 (FEED) を開始することにしたことを発表した。この基本設計作業は Abadi ガス田の生産・処理施設や天然ガス液化プラント等の具体的な仕様等を検討する。当該基本設計作業は①天然ガス液化プラント (LNG プラント)、②洋上生産出荷施設 (FPSO)、③海底生産施設 (SURF)、④海底パイプライン (GEP) の 4 つのパッケージに分けて実施する予定で、今般、FPSO、SURF、GEP につき発注先の選定を完了した。FPSO については FEED 作業を 2 つの企業連合が並行して実施する「デュアル FEED」方式を採用している。

株式会社 INPEX は、2025 年 8 月 6 日、Abadi LNG プロジェクトにおいて、天然ガス液化プラント (LNG プラント) の FEED (基本設計) も開始することとし、発注先の選定を完了したことを発表した。これにより、4 つの FEED パッケージ全てについて委託先選定が完了した。基本設計作業を 2 企業連合が並行して実施する「デュアル FEED」方式を採用しており、PT JGC Indonesia および PT Technip Engineering Indonesia からなる企業連合と、PT KBR Indonesia、Samsung E&A, Co. Ltd. および PT Adhi Karya (Persero) Tbk. からなる企業連合によりそれぞれ実施される。CCS (Carbon Capture and Storage) に関しては LNG プラントの FEED パッケージの中にも関連するスコープが含まれている。

日揮ホールディングス株式会社は、2025 年 8 月 27 日、JGC インドネシア社と仏 Technip Energies 社のインドネシア法人がコンソーシアムを組成し、株式会社 INPEX マセラが計画している Abadi LNG プロジェクトのうち、陸上 LNG プラント (475 万トン×2 系列) と洋上生産出荷施設 (FPSO: Floating Production Storage and Offloading) に係る FEED (基本設計) 役務、および EPC (設計・調達・建設工事) 等に係る見積役務を受注したことを発表した。陸上 LNG プラントと FPSO の FEED 役務については、自社コンソーシアムを含む 2 つの企業連合が並行して実施する「デュアル FEED」方式が採用されており、技術・価格面

で最も優れた提案を行った企業連合が、最終的にコントラクターとして選定される予定としている。

Trafigura 社は、2025 年 8 月 7 日、インド Indian Oil Corporation Limited (IOC) と 5 年間の LNG 供給契約を締結した、と述べた。Trafigura は 250 万トンの LNG を、IOC 向けに、インド国内の気化基地での用途に供給することとなる。

豪 Venice Energy 社は、2025 年 8 月 12 日、サウスオーストラリア州アデレード港湾 Outer Harbor LNG 基地プロジェクトを Nebula Energy 子会社 AG&P LNG に、2024 年 10 月の拘束力あるタームシート合意に基づき売却することに合意したことを発表した。AG&P LNG はプロジェクトファイナンスの 100%を提供し、同基地を建設・操業することとなる。FID (最終投資決定) は 2025 年内の見込み。

豪 Santos 社は、2025 年 8 月 11 日、19 日、25 日、アブダビ ADNOC (Abu Dhabi National Oil Company) 子会社 XRG 社が主導し Abu Dhabi Development Holding Company (ADQ) ・ Carlyle が含まれる連合体より受領した Santos 発行済株式 100%買収の非拘束・参照型提案について、最新状況を報告した。両者は拘束力ある SIA (計画実施契約) の最終化段階にあるとしている。両者は独占交渉期間の 2025 年 9 月 19 日までの延長に合意した。

豪 Santos 社は、2025 年 8 月 4 日、ENGIE との間で、豪州東部市場向けに Narrabri ガスプロジェクトからの天然ガス供給に関して非拘束の MoU (覚書) を締結したことを発表した。Santos は ENGIE 向けに、Narrabri から操業開始後 10 年間以上、最大年間 20 PJ (37 万トン) の天然ガスを供給することとなる。Santos ・ ENGIE は、Santos の第三者カーボンマネジメントビジネス、具体的には Moomba フェーズ 2 カーボン回収・貯蔵 (CCS) プロジェクトを通じての脱カーボン化活動も推進することをコミットしている。Narrabri ガス供給は、Santos による同プロジェクト FID (最終投資決定)、拘束力あるガス供給契約交渉・締結が条件となる。

豪 Santos 社は、2025 年 8 月 11 日、Santos が Fluor Australia 社を相手に提起した審理に関して、クィーンズランド州最高裁が Santos 有利な判断を同 8 日に下したことを発表した。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、North West Shelf (NWS) プロジェクトの 2025 年上半年期生産自社シェア分が、資源層の収縮、Goodwyn Alpha プラットフォームの計画メンテナンス、サイクロン影響で前年同期比 23.0%減少した、と述べた。同年上半期、NWS 参加企業は 5 本の海底生産井を既存 NWS 沖合設備にタイバックする Greater Western Flank フェーズ 4 プロジェクトの要長期資機材の発注を承認、同年下半期の FID (最終投資決定) 目標としている。操業最適化のため、NWS は 2025 年上半年期、第 2 系列を恒久停止した。これにより KGP (Karratha ガス設備) 生産容量は年間 1690 万トンから 1430 万トンに減少した。下半期に入り、Lambert West 開発井が掘削され、海底インフラストラクチャーが設置され、スタートアップ作業が開始した。このプロジェクトは Angel プラットフォームの生産量維持につながる。NWS プロジェクト延命の規制承認手続きが継続

中で、豪州政府の承認案が発行された。Woodside はオペレーターであり 33.33%参加権を持つ。2024 年発表された Chevron との資産スワップ契約完了後、Woodside 参加権は 50%に増加する。この資産スワップは 2026 年完了見込み。

豪 Woodside Energy 社の 2025 年 8 月 19 日、オンライン上半期業績報告会によると、North West Shelf 延長に関して 5 月に連邦政府大臣の承認案公表以来、最終承認に向けて同社は政府と折衝を続けている。Woodside は「最終連邦承認を未だ得ていないことは残念なこと。豪州の生産性向上のため、承認に要する期間をよくよく検討する必要がある。早期に最終承認を得ることを期待している」「Scarborough、Louisiana LNG が進行中で、Woodside は 2040 年までに 60%増加する見込みの LNG 需要に対応する優位なポジションにある」「自社生産 LNG におけるガスハブへのエクスポージャーは 24.2%であり、この分は原油価格連動販売に対して 100 万 Btu 当たり 3 米ドルのプレミアムを実現し、不安定な市場で価格多様化の価値を実証した」「Louisiana LNG は Woodside にとってゲームチェンジャーで、自社をグローバル LNG パワーハウスに変貌し、今後数十年間株主価値をもたらす」「4 月 FID 以降、2029 年 LNG 出荷開始に向けモメンタムを維持している。第 1 系列建設は 22%完了、2025 年内に最初の鉄鋼構造物を現場に設置することを目指している」「6 月 Louisiana LNG Infrastructure の Stonepeak への 40%売却を完了した。これにより Stonepeak は見込まれる資本的支出に 57 億米ドルを拠出し、2025 年、2026 年とも資本的支出の 75%を負担する」「さらに切り売りに向けてハイクオリティーな潜在パートナーから高い関心を受けている」「Louisiana LNG は非常に競争力が高い。現場は全て許可済み、LNG プロジェクトコストは年間容量トン当たり 960 米ドル程度」「Louisiana LNG HoldCo 出資に対する強力な市場の関心から、当社側の優先事項は、長期的な戦略的整合性、プロジェクトの価値を高める補完的な優位性のあるパートナーを入れることにある」「よいアナロジーとしては Scarborough における JERA、エルエヌジージャパンの出資参加である。これはパートナーとの出資配分、引き取りの確保、低カーボンソリューション検討等、さらなる機会を開くことにつながった。タイミングや短期的な検討ではなく、パートナー選定に慎重で規律あるアプローチをとっている」「FID を行ったのは 1650 万トン分である。800 万トン进行自社ポートフォリオに残したいが、この多くを二次販売する」と述べた。Santos との合併の再度の交渉可能性についての質問には、「それはない。Santos との交渉は LNG ポートフォリオが動機だった。当社は Tellurian を買収し、Louisiana LNG 投資が進行中である。大西洋のポジションと太平洋でのポジションを組み合わせる機会を見ており、これは太平洋指向の 2 社の組み合わせによるよりも、よりよいポートフォリオである」と述べた。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、Browse から North West Shelf に供給するプロジェクトに関して、開発コンセプトの最適化、規制承認の推進、Browse 数量を Karratha ガス設備で処理するコマーシャル上の話し合いの進展に向け作業は続いている、と述べた。2025 年 3 月、Woodside は、環境影響を軽減するため開発範囲の変更・新たな

環境対策を反映して州環境対策案への修正を行った。5 月、Woodside は州環境対策変更案に沿って連邦環境対策案の修正案を提出した。Browse CCS プロジェクト案は 2024 年 10 月に連邦規制機関に提出され、2025 年 1 月 2 日、有効と宣言された。Woodside はオペレーターであり 30.6%参加権を有している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、Pluto LNG におけるスコープ 1 温室効果ガス排出を、Woodside Solar プロジェクトからの太陽光エネルギー活用により削減する計画を進めている、と述べた。Woodside Solar FID (最終投資決定)、太陽光電力の導入開始は、Pluto LNG まで再生可能エネルギーを輸送するために必要な新規の共用インフラストラクチャーへのアクセス確保、関連するコマーシャル上の契約確定に依存している。このインフラストラクチャーの開発は、西オーストラリア州政府、APA Group が主導している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、西オーストラリア州北部の顧客向けに、2025 年上半期 1,233 TJ (23 千トン)・トレーラー 1,200 台相当のトラックでの LNG 引き渡しがなされた、と述べた。2019 年 Pluto LNG トラック積み込み設備稼働開始以降、Woodside は 4,400 台 (4,400 TJ (80 千トン)) 以上を出荷している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 22 日、Scarborough 沖合設備・幹線 (操業) 環境計画 (Scarborough 操業 EP) について連邦海洋石油類安全環境管理庁 (NOPSEMA) による承認の有効性を確認する連邦法廷判断を歓迎した。Scarborough 操業 EP は、Woodside が Scarborough 浮体生産設備 (FPU) を接続・コミッション・操業するため必要とする最終連邦承認であった。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、Wheatstone 設備の 2025 年上半期の自社シェア分生産は、設備信頼性の向上により前年同期比 8.6%増加となった、と述べた。Julimar フェーズ 3 プロジェクトは 4 生産井を既存 Julimar ガス田生産システムにタイバックする。海底部分の建設が上半期に開始、下半期に掘削活動が開始された。同プロジェクトは 2026 年稼働開始見込みである。Woodside はオペレーターであり Julimar-Brunello ガス田群に 65%参加権を有する。Woodside は Wheatstone プロジェクトに 13%の非操業参加権を持つ。2024 年に発表された Chevron との資産スワップ契約完了により Woodside は Wheatstone ・ Julimar-Brunello 持分を手放すこととなる。Chevron との資産スワップは 2026 年完了見込み。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、同年上半期に Sunrise ガスの処理立地点に関して東ティモール南岸を訪問した、と述べた。この訪問では、LNG 設備含む諸設備の立地点として同国政府提案による Natarbora、資器材供給ベースとしての Suai も含まれた。Woodside はオペレーターであり 33.44%参加権を持つ。

豪 Santos 社は、2025 年 8 月 25 日、同年上半期業績を発表、平均実現 LNG 価格は 100 万 Btu 当たり 11.57 米ドルだった、と述べた。Barossa LNG は 98%以上完成しており、ガス生産は間近とのこと。Darwin LNG 設備は RFSU (稼働開始準備完了)、Barossa FPSO は数週間中に RFSU に達する見込みとのこと。

豪 Santos 社の 2025 年 8 月 25 日付資料によると、パプアニューギニアの Papua LNG プロジェクトは、2026 年第 1 四半期の FID (最終投資決定) を目標としている。

[北米]

米国、欧州連合は、2025 年 8 月 21 日、貿易協定枠組協定に合意したことを発表した。これによると欧州連合は 2028 年まで 7500 億米ドル相当の米国産 LNG、石油類、原子力エネルギー製品を調達する意図である。因みに米国から欧州連合への LNG 輸入は推定 2023 年 350 億米ドル、2024 年 230 億米ドル。

韓国通商産業資源部 (MOTIE) は、2025 年 7 月 31 日、米国との通商合意の一環で、韓国は米国造船所の買い取りのため 1500 億米ドルの造船協力基金を設定した、と述べた。

韓国ハンファオーシャン (Hanwha Ocean) 社は、2025 年 8 月 27 日、同国証券市場規制機関への提出書類において、LNG 新造船 1 隻を 3466 億ウォンで、子会社 Hanwha Philly Shipyard より受注したことを明らかにした。Hanwha Philly からハンファオーシャンには 2025 年 7 月 21 日に続く 2 隻目の発注となる。ハンファオーシャンの米国海運子会社 Hanwha Shipping からの発表によると、これら船舶は米国で建造することを確認した。

Cheniere 社、株式会社 JERA は、2025 年 8 月 8 日、LNG 売買契約を締結したことを発表した。JERA は、Corpus Christi、Sabine Pass LNG プロジェクトより 2029 年からの約 22 年間、FOB (本船渡し) にて年間 100 万トン購入することとなる。購入価格はヘンリーハブ連動プラス固定液化手数料となる。

Cheniere Energy 社は、2025 年 8 月 7 日、第 2 四半期業績報告の中で、自社 LNG プロジェクトの状況を説明した。ルイジアナ州 Sabine Pass LNG 設備では、年間 3000 万トン超容量の液化・輸出設備を操業している (SPL Project)。隣接で拡張開発を行っている (SPL Expansion Project)。2025 年 6 月、SPL Expansion Project の FERC 申請は、3 液化系列と関連インフラストラクチャーを含みデボトルネッキングを含めて容量年間 2000 万トンを維持しつつ 2 段階でのプロジェクトとすることを反映して更新された。

Cheniere Energy 社は、テキサス州コーパスクリスティ近く Corpus Christi LNG 設備で、CCL Stage 3 プロジェクト第 1・2 系列含めて容量年間 1800 万トンを超える液化・輸出設備を操業している (CCL Project)。隣接で 7 基のミッドスケール系列合計生産容量年間 1000 万トンを超える拡張を建設中である (CCL Stage 3 Project)。この内 300 万トン分が稼働しており、700 万トン超分が建設中である。CCL Stage 3 Project 隣接で追加 2 本のミッドスケール系列、デボトルネッキング込みで合計容量年間 500 万トン分が建設中である (CCL Midscale Trains 8 & 9 Project)。2025 年 6 月、取締役会がこれについて FID (最終投資決定) に同意、同 18 日付で公式推進通知が Bechtel に伝えられた。CCL Project 隣接でデボトルネッキング込みでの総容量年間 2400 万トンの拡張が開発中である (CCL Stage 4 Expansion Project)。2025 年 7 月、複数の関係会社が FERC (米連邦エネルギー規制委員会) でのプレファイリング (事前審査) 手続きを開始した。

Sempra 社は、2025 年 7 月 31 日、Sempra Infrastructure ・ JERA 社間、テキサス州ジェファーソン郡 Port Arthur LNG フェーズ 2 開発プロジェクトから年間 150 万トンの LNG 引き取り供給に関する 20 年間の SPA(売買契約) を発表した。FOB(本船渡し) 条件で供給される。2025 年 6 月締結された非拘束 HOA(基本合意) から SPA に前進するもの。

Sempra 社は、2025 年 8 月 7 日、自社同年第 2 四半期業績報告にて、Sempra Infrastructure の Port Arthur LNG フェーズ 2 開発プロジェクトが、同四半期に LNG 年間 1350 万トンまで非 FTA 輸出承認を DOE(米エネルギー省) から受けた、と述べた。7 月、Sempra Infrastructure はフェーズ 2 から年間 150 万トンの供給に関して JERA と 20 年間 SPA(売買契約) を締結した。

Sempra 社、ConocoPhillips 社は、2025 年 8 月 21 日、Sempra Infrastructure ・ ConocoPhillips が Port Arthur LNG フェーズ 2 開発プロジェクトより、LNG 年間 400 万トンの引き取りに関して、20 年間の SPA(売買契約) を締結したことを発表した。2022 年 7 月、Sempra Infrastructure ・ ConocoPhillips は Port Arthur LNG フェーズ 1 プロジェクトでの戦略的提携を開始、ConocoPhillips は 30%出資、引き取り容量年間 500 万トン・20 年間を確保した。Port Arthur LNG フェーズ 1 は、LNG 貯蔵タンク 2 基・液化系列 2 本で構成、第 1 系列 2027 年、第 2 系列 2028 年コマーシャル稼働開始見込みである。Port Arthur LNG フェーズ 2 開発プロジェクトは、合計年間 1300 万トンの LNG を生産できる 2 液化系列により、Port Arthur LNG 設備総液化容量を年間 2600 万トンに増加することとなる。Port Arthur LNG のさらなる追加フェーズも初期開発段階にある。2023 年 9 月、FERC(連邦エネルギー規制委員会) がフェーズ 2 を承認、2025 年 5 月 DOE(米エネルギー省) 輸出承認により米国と自由貿易協定を持たない諸国への LNG 輸出が認められることとなった。Sempra Infrastructure はこれよりも先に、Bechtel が Port Arthur LNG フェーズ 2 設備の EPC(エンジニアリング・調達・建設) 業務を提供するべく選定されたことを発表した。

Sempra Infrastructure、EQT 社は、2025 年 8 月 27 日、Port Arthur LNG フェーズ 2 開発プロジェクトから LNG 年間 200 万トン引き取りの 20 年間の SPA(売買契約) を発表した。EQT はこの LNG を、FOB(本船渡し) 条件・ヘンリーハブ連動価格で購入する。Sempra Infrastructure は引き続き同プロジェクトの 2025 年内 FID(最終投資決定) を目標としている。

Venture Global 社の 2025 年 8 月 12 日付発表によると、Shell が提起した国際仲裁で、仲裁機関は VG に有利な判断を下した。Shell は Calcasieu Pass LNG 設備の長期契約買主の 1 社である。Shell は 2023 年 VG を相手取り提訴した。

DOE(米エネルギー省) は、2025 年 8 月 4 日、Venture Global 社ルイジアナ州キャメロン郡 Calcasieu Pass プロジェクトから非 FTA(非自由貿易協定) 諸国向け追加 LNG 輸出最終承認を発表した。この承認により、2022 年稼働開始している Calcasieu Pass LNG 輸出プロジェクトは、追加年間 20 bcf、およそ 5 カーゴを支える量を輸出できることとなる。

Venture Global 社によるとこれにより Calcasieu Pass 許可済みピーク液化容量は、年間 1200 万トンから 1240 万トンに増加する。

豪 Worley 社は、2025 年 7 月 30 日、米 Venture Global よりルイジアナ州キャメロン郡 CP2 プロジェクト第 1 段階償還型 EPC 契約の公式推進通知を受けたことを明らかにした。Worley はこれまで当該 EPC 契約に関わる限定推進通知に基づき EPC (エンジニアリング・調達・建設) 計画業務を実施しており、先に現場人員を動員した。公式推進通知は、Venture Global による 2025 年 7 月 28 日 FID (最終投資決定) を受けてのこととなる。

Venture Global 社は、2025 年 8 月 13 日、同年第 2 四半期業績報告会で、CP2 プロジェクトについて 2026 年に第 2 段階 FID (最終投資決定) に向け、長期 SPAs (売買契約) 締結を進めている、と述べた。この第 2 段階建設資金は、自社キャッシュフローおよび第 1 段階同様のプロジェクトファイナンスングを用いるとしている。第 2 段階公称設計容量は年間 560 万トン、ピーク容量年間 800 万トンとする。CP2 第 1 段階公称容量は年間 1440 万トンである。オプティマイゼーションの結果、ピーク生産水準は年間 2000 万トン近いと考えている。両段階の、工場製造の液化系列 36 本で年間 2800 万トン生産できるものとしている。同社は、第 1 段階の資金調達について既に単独では史上最大のプロジェクトファイナンスングでありつつ、3 倍近い申し込みがあった、と述べた。現場作業および構成要素製造の着実なスタートによりプロジェクトは順調に進展しており、早期に準備開始したことから自社の先行 2 プロジェクトよりも CP2 は早期に LNG 生産に到達できる可能性が高いとしている。LNG 生産開始は 2027 年、両段階の建設・試運転期間に 550 カargo 以上を出荷できると同社は推定している。CP2 第 1・2 段階の見通しとして、従来の 2700-2800 億米ドルから、2850-2950 億米ドルへと引き上げた。課題として労務費上昇、サプライチェーンのインフレーション、関税不確実性を指摘している。そうはいっても自社のアプローチはこうしたチャレンジへの対処に最適としている。同社諸設備の多くが工場・組み立て設備で建造される。内部的な EPC チームを構築しており、EPC 内容の多くを社内で行っている。

Rio Grande LNG ・ Rio Bravo パイプラインプロジェクトについて FERC (連邦エネルギー規制委員会) が 2025 年 7 月 31 日付で発行した最終追加環境影響評価書によると、FERC 事務局は引き続き、同プロジェクトの承認が、同委員会が従来の承認で付した環境諸条件、今回の最終追加 EIS で提言された追加緩和諸策の実施により、重大な影響には至らない、との結論を維持している。

NextDecade 社の 2025 年 8 月 1 日に明らかにされた同年第 2 四半期事業報告によると、Rio Grande LNG 設備第 1・2 系列、共通諸設備のプロジェクト完成率は 48.3%、第 3 系列 22.7%であった。

NextDecade 社の 2025 年第 2 四半期事業報告によると、同年 6 月、Bechtel との第 4 系列・関連インフラストラクチャーの一括請負・引き渡し (LSTK) EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約の価格更新を完了、Bechtel との第 4 系列・関連インフラストラクチャーの LSTK EPC 契約を締結した。第 4・5 系列の EPC 契約の価格有効期間は 2025 年 9 月

15 日となっている。NextDecade は、第 4 系列 FID (最終投資決定) を、資金調達確保を条件に 9 月中旬に見込んでいる。NextDecade は第 5 系列資金調達の折衝を続けている。コマーシャル上のサポート、資金調達確保を条件に、9 月中旬を FID 目標としている。

NextDecade 社は、2025 年 8 月 7 日、SEC (連邦証券取引委員会) 提出書類で、TotalEnergies ・ GIP (Global Infrastructure Partners) との間で、Rio Grande LNG 第 4 液化系列、関連共通設備 (第 4 系列プロジェクト) 開発に関わる、Train 4 JVCo (Rio Grande LNG Train 4 Intermediate Holdings, LLC) への各々 10%、50% 出資と引き換えに、資金調達へのコミットメントの契約を締結したことを明らかにした。GIP 持分は、第 4 系列プロジェクトの投資に対する一定のリターン実現とともに 30% に減少するとしている。

NextDecade 社の 2025 年第 2 四半期事業報告によると、第 6 系列は Rio Grande LNG 設備既存防壁内に開発検討されている。NextDecade は第 6 系列の FERC (連邦エネルギー規制委員会) 事前審査申請 (プレファイル) を 2025 年、公式申請を 2026 年初に見込んでいる。NextDecade は第 7・8 系列について、複数の立地点を検討している。

NextDecade 子会社 Rio Grande LNG 社は、2025 年 8 月 19 日、Rio Grande LNG プロジェクトのための、州内パイプライン追加接続に関する設計修正の申請を FERC (連邦エネルギー規制委員会) に提出した。Rio Grande は、FERC 非管轄下の州内パイプラインへの接続を促進するための設計修正承認を申請している。Rio Grande は、コミッショニング期間、その後の Rio Grande LNG 設備寿命期間を通じての稼働スタートアップ時期、ピーク需要期間の供給信頼性を確保すべく、追加ガス供給の必要性を認識している。Rio Grande は自社設備北側での、非 FERC 管轄のパイプライン (Valley Crossing Pipeline (VCP)) との接続を Valley Crossing Pipeline 社により実施されることを提案している。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 8 月 29 日、Rio Grande LNG プロジェクト承認を再発行した。法廷により義務付けられた措置を実施、FERC は Rio Grande LNG 設備に関して公共利益に反することはない、Rio Bravo パイプラインプロジェクトは公共利便性・必要性により必要とされるものであるとの従来の判断を再確認する。FERC の従来の指令による指示は引き続き有効とする。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、Louisiana LNG 第 1 系列は 2025 年上半期末時点で 22% 完了となった、と述べた。Louisiana LNG 社完全子会社 Louisiana LNG Gas Management 社は、bp から 2029 年供給開始で原料ガス最大 640 bcf を長期条件で購入することをコミットした。FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は同 LNG 設備・Driftwood パイプライン業務開始期日を 2029 年末まで延長することを承認した。Woodside は DOE (米エネルギー省) にも、非自由貿易協定諸国への LNG 輸出承認における輸出開始期限を 2029 年末まで延長する申請を行った。Woodside はオペレーターで Louisiana LNG 社に 100%、Louisiana LNG Infrastructure 社に 60% 参加権を持っている。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、同年上半期に自社は 3 本の長期 LNG SPAs (売買契約) を締結した、と述べた。Uniper とは Louisiana LNG よりそのコマーシ

ヤル稼働開始 (COD) より最大 13 年間、年間 100 万トン、Louisiana LNG の COD から 2039 年まで Woodside グローバルポートフォリオより最大年間 100 万トンの 2 本である。Woodside は China Resources Gas International 社とも 2027 年より 15 年間、持ち届け年間 60 万トンの SPA を締結した。Woodside は JERA、PETRONAS と非拘束の HOAs (基本合意) を締結した。JERA とは、2027 年から 5 年間、日本の冬季に DES 持ち届け条件で 3 カargo (年間 20 万トン程度)。PETRONAS とはマレーシア向けに 2028 年から 15 年間、年間 100 万トン。

DOE (米エネルギー省) は、2025 年 8 月 22 日、Energy Transfer 子会社 Lake Charles LNG Export 社に、非自由貿易協定 (非 FTA) 諸国へのルイジアナ州 Lake Charles LNG プロジェクトからの LNG 輸出開始期限の延長を認める修正指令を発行した。従来の期限は 2025 年 12 月 16 日だった。Lake Charles LNG Export 社は、非 FTA 諸国向け輸出開始期限が 2031 年 12 月 31 日までとなる。DOE は同社に認める輸出期間を 2050 年 12 月 31 日から 3 年間延長し、2053 年 12 月 31 日までとすることが必要かつ適切と判断している。

Texas LNG Brownsville 社向けに Texas LNG プロジェクトについて FERC (連邦エネルギー規制委員会) が 2025 年 7 月 31 日付で発行した最終追加環境影響評価書 (EIS) によると、FERC 事務局は引き続き、CWEJCs (環境正義に懸念を抱くコミュニティ) に対する建設・操業からのプロジェクトの影響は不釣り合いで不適切なものとなる、と結論付けている。「さらにプロジェクト地域内の CWEJCs は、プロジェクト関連・累積的な景観上の重大な影響を受けることとなるかもしれない。大気品質影響に関して、CWEJCs へのプロジェクトの影響は、不釣り合いで不適切なものとなる。しかし、Texas LNG 設備近くの大気品質影響は重大なものとならない」。影響を受ける資源の残りに関して、Texas LNG プロジェクトは、追加 EIS で提言した追加緩和諸策により、重大ではない水準に影響を回避、緩和できる、と結論付けている。今回の追加 EIS は、ESA (絶滅危惧種法) に関しても 2019 年最終 EIS 以降新たに掲載された ESA 種を勘案して調査している。同プロジェクト承認の指令において、建設は事務局が ESA 調査を完了するまで開始しないことを規定することを提言している。

Texas LNG Brownsville 社による、2025 年 8 月 25 日付の発表によると、FERC (連邦エネルギー規制委員会) は Texas LNG プロジェクト建設・操業を承認する最終承認を再発行し、2029 年 11 月建設を完了する建設日程を承認した。FERC はこの最終指令を 2025 年 8 月 21 日 (木)、従来予定したよりも 3 ヶ月先行して発行した。Texas LNG Brownsville 社は Glenfarne 社子会社。Glenfarne は Texas LNG の FID (最終投資決定) を 2025 年末までに目標としている。Texas LNG は FID 実現に十分な数量の買主引き取りのコミットメントを確保している。Kiewit が一括請負引き渡し方式での EPC (エンジニアリング・調達・建設) を担当している。Glenfarne の連邦承認を受けた LNG ポートフォリオ年間 3280 万トン分には、Alaska LNG プロジェクト、Magnolia LNG プロジェクトを含む。

Commonwealth LNG は、2025 年 8 月 4 日、自社がルイジアナ州で開発中の年間 950 万

トン LNG 設備の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 業務のため、Technip Energies と契約したことを発表した。Technip Energies はこれまでに同プロジェクト向けに FEED (基本設計) 業務を完了した。Commonwealth LNG はその LNG プロジェクトに、2025 年下半期 FID (最終投資決定)、2029 年 LNG 生産開始を見込んでいる。

Commonwealth LNG 社は、2025 年 8 月 13 日、ルイジアナ州で計画中の LNG 設備に関して、建設前の初期的な用地準備作業に着手することに関して承認を求める申請を FERC (米連邦エネルギー規制委員会) に提出した。Commonwealth は 2025 年 9 月 19 日までに承認を求めている。

Kimmeridge 社は、2025 年 8 月 7 日、Mubadala Energy からの戦略的出資完了、SoTex HoldCo 社の Caturus への変更完了を発表した。Kimmeridge 社の Commonwealth LNG は、2025 年中に FID (最終投資決定) を期待している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、自社の Commonwealth LNG と 2022 年 9 月に締結した SPAs (売買契約) は Commonwealth LNG 側が期限内に FID 含む規定項目を実現しなかったことから、2025 年上半期に解消された、と述べた。

DOE (米エネルギー省) は、2025 年 8 月 29 日、Commonwealth LNG 社に対してそのルイジアナ州で計画中のプロジェクトから、非自由貿易協定 (非 FTA) 諸国に LNG 日量 1.21 Bcf 相当まで輸出する最終承認を発表した。2025 年 2 月の DOE による条件付承認に続くもので、同 6 月 FERC (連邦エネルギー規制委員会) による同設備立地・建設・操業承認を反映している。2024 年 LNG 輸出スタディに関するコメントに対する DOE による 2025 年 5 月のレスポンスを織り込んでいる。

Commonwealth LNG 社は、2025 年 8 月 26 日、ルイジアナ州キャメロン郡で開発中の LNG 輸出設備の液化プロセスの中核部分となる Baker Hughes 冷媒ターボコンプレッサー 6 基発注を承認したことを発表した。この冷媒コンプレッサーは、Baker Hughes LM9000 ガスタービンを動力とすることとなる。発表によると LM9000 は Baker Hughes の最高効率・出力のエアロデリバティブガスタービンドライバーで出力 73 MW を 44% 効率で提供する。この発注は、同 LNG 設備の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 実施を主導することを今般 Commonwealth が発表した Technip Energies が実行する。

Coastal Bend LNG 社は、2025 年 8 月 4 日、テキサス州湾岸で計画中の天然ガス液化・輸出設備に、ConocoPhillips の改良カスケード®方式液化技術を選定したことを発表した。Coastal Bend LNG は 2025 年中に FERC (連邦エネルギー規制委員会) 承認の事前申請 (プレファイル) することを見込んでいる。

Coastal Bend LNG 社は、2025 年 8 月 13 日、エネルギー・インフラストラクチャー・プロジェクトの許可手続きを加速するため AI を活用する新興企業 ClassVI.AI 社の人工知能ソリューションを用いて FERC (連邦エネルギー規制委員会) 許可申請を準備することを発表した。

Coastal Bend LNG 社は、2025 年 8 月 18 日、Solvanic 社との間で、Coastal Bend LNG

設備での電気化学的アミン再生 (EMAR) による炭素回収に関する FEED (基本設計) スタディを開始したことを発表した。Solvanic は、マサチューセッツ工科大学 (MIT) の研究グループにより開発された EMAR 技術の利用に関してオプション契約を締結している。

カナダ Tourmaline 社は、2025 年 7 月 30 日、ドイツ Uniper 社と長期 LNG 原料ガス供給契約を締結したことを発表した。Tourmaline は、2028 年 11 月から 8 年間、米ガルフで日量 80,000 百万 btu (57 万トン) の天然ガスを供給する。この LNG 原料ガス供給契約は、Tourmaline に対して TTF への国際価格エクスポージャーをもたらす。Tourmaline は TC Energy 社により米ガルフへの長期ファーム輸送容量を確保しており、Tourmaline のアルバータ北部・ブリティッシュコロンビア州 Montney 拠点からの天然ガスが欧州天然ガス市場にアクセスできることとなる。ファーム輸送は 2025 年 11 月開始予定で、Uniper 契約の開始前にも、米ガルフ地元市場でガスを販売するか、短期の LNG 原料ガス供給取引を締結するフレキシビリティを得られることとなる。

英 Centrica 社は、2025 年 8 月 15 日、トレーディング子会社 Centrica Energy が米 Devon Energy 社と、天然ガス SPA (売買契約) を締結したことを確認した。Devon Energy は 2028 年から 10 年間、日量 50,000 (100 万 Btu) の天然ガスを供給することとなる。これは LNG 換算年間 5 カーゴに相当する。この数量は、欧州ガスハブ価格 (TTF) 指標で価格設定することとなる。

カナダ Targray 子会社でニューヨークに本社を置く Targray Industries 社は、2025 年 8 月 1 日、自社に再生可能 LNG を ISO コンテナで最大年間 51.75 bcf (108 万トン) 輸出を、長期・短期とも承認する 7 月 3 日の指令の修正申請を DoE (米エネルギー省) に提出した。再生可能 LNG 生産設備として、自社ペンシルベニア州トゥワンダ REV LNG に加え他社設備を加える修正である。

BKV 社は、2025 年 8 月 12 日、Gunvor との間で、カーボン隔離済みガス (CSG) の取引を発表した。Gunvor が CSG を、一定の条件下で購入、売り込み、販売を行うこととなる。これは BKV の Barnett Zero プロジェクト等の CCUS ビジネスに基づく差別化したプレミアムコモディティとなる。

WhiteWater は、2025 年 8 月 25 日、WhiteWater、MPLX 社、ONEOK 社、Enbridge 社が、参加する Matterhorn 合弁事業体 (Matterhorn JV) を通じて、Eiger Express パイプラインの FID (最終投資決定) に達したことを発表した。同パイプラインは、テキサス州西部 Permian 地域からケイティー地区まで、42 インチ径で 450 マイル (724 km)、日量 2.5 bcf 輸送するものとして設計している。2028 年半ばに稼働開始見込み。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、Beaumont New Ammonia について、テキサス州ボーモントにて設計容量年間 110 万トンで建設中の低カーボンアンモニアプロジェクトである、と述べた。Woodside は 2025 年末のアンモニア生産開始、CCS 稼働開始後 2026 年下半期にカーボンを下げたアンモニアの生産開始を目標としている。第 1 系列建設は引き続き OCI が進めており、プロジェクトは 2025 年上半期末時点で 95%完了とな

っている。Woodside は OCI から引き渡し後オペレーターとなる。

Entergy Louisiana 社は、2025 年 8 月 20 日、Meta 社のリッチランド郡での新規データセンターに向けてのインフラストラクチャー投資に Entergy Louisiana が進めるための契約をルイジアナ州公益事業委員会 (LPSC) が承認したことを発表した。この契約により、Entergy Louisiana は 3 基のコンバインドサイクルタービン発電設備 3 基の建設を進めることができる。2 基はリッチランド郡で 2028 年末稼働開始見込み。3 基目は Entergy Louisiana のセントチャールズ郡内既存の Waterford 設備敷地内に 2029 年末までに稼働開始見込み。

Nikkiso Clean Energy & Industrial Gases 社は、2025 年 8 月 19 日、NPG (Shell ・ FOCOL Holdings 社間の合弁事業) により、バハマ諸島ナソーの New Providence ガスプロジェクトに LNG 気化・超低温機器を提供する委託契約を受注したことを発表した。同プロジェクトは、LNG 受入基地およびクリフトンピアでの発電設備増強を含む。

日揮ホールディングス株式会社は、海外 EPC 事業会社である日揮グローバル株式会社が米 Fluor Corporation と共同で、カナダ LNG Canada 拡張プロジェクトの FEED (基本設計) のアップデート役務、および設計・調達・建設工事に係る見積役務を受注したことを発表した。

カナダ LNG Canada は、2025 年 8 月 6 日、連邦エネルギー規制機関 (CER) に、12 ヶ月期間の輸出許可数量を、従来の 38.056 bcm (2800 万トン) から 40.485 bcm (3000 万トン) に修正する申請を行った。全期間輸出数量は 1,494 bcm (10.98 億トン) で変更なし。

Woodfibre LNG は、2025 年 7 月 28 日、同プロジェクト初の浮体貯蔵タンク向けの恒久型海洋杭打ちを 7 月 15 日に開始した、と述べた。

カナダ ブリティッシュコロンビア州政府は、2025 年 7 月 29 日、Haisla ネイションとの 2 億カナダドル拠出の新協定が、Cedar LNG プロジェクトを支えるインフラストラクチャーとなる新規 287 kV 送電線、変電設備 1 件、配給線、沿岸電化の建設面で Haisla ネイションを支援するものとなる、と述べた。本拠出協定は、Cedar LNG 電化を支えるため 2 億カナダドルを提供、2025 年これよりも先に発表された 2 億カナダドルの連邦支援を補完するものとなる。Cedar LNG は、2028 年末に稼働開始見込み。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 8 月 19 日、カナダのブリティッシュコロンビア州 Liard ガス田に関して、開発戦略についてオペレーターと、Rockies LNG 社への参加企業とはカナダ西海岸 Ksi Lisims プロジェクトを通じての LNG 輸出可能性について、検討している、と述べた。Woodside は同ガス田に、非操業だが 50%参加権を持っている。

Sempra 社は、2025 年 8 月 7 日、メキシコ バハカリフォルニア州 Energía Costa Azul (ECA) LNG について、2026 年春にコミッションングカーゴの出荷を開始する可能性が高い、と述べた。機械的には 2025 年内に完成、2026 年春実質完成に至るとしている。

米テキサス州に本拠を置く Epsilon LNG 社・シンガポール本拠の LNG Alliance 社間のメキシコ合弁事業 AMIGO LNG 社は、2025 年 8 月 8 日、海洋設備の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を、メキシコ Constructora Manzanillo (COMSA Marine) 社に発注

を決めたことを発表した。AMIGO LNG 社はメキシコ西海岸ソノラ州グアイマスに年間 780 万トンの LNG 輸出設備を開発している。COMSA Marine は、AMIGO LNG 設備の LNG 栈橋、着栈・繫留諸設備、LNG 積み込みを支える随伴インフラストラクチャー等、海洋インフラストラクチャーの詳細エンジニアリング・建設・コミッショニングを担当することとなる。AMIGO LNG は 2028 年第 3 四半期までに LNG 輸出開始を目指す。

AMIGO LNG 社は、2025 年 8 月 19 日、Gunvor Singapore 社との長期 SPA (売買契約) 締結を発表した。Gunvor は年間 85 万トンの LNG を 20 年間購入する。引き渡しは 2028 年下半期に AMIGO LNG 第 1 液化系列コマーシャル稼働開始とともに開始する。

AMIGO LNG 社は、2025 年 8 月 25 日、Drydocks World と、浮体 LNG (FLNG) 液化設備・浮体貯蔵設備 (FSU) インフラストラクチャーの組み立て・引き渡しの EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を発表した。Drydocks World は LNG 輸出操業を支える FSU 改造を実施し、米国の処理・液化技術を組み込む新造 FLNG バージを建造する。FLNG 設備は年間 420 万トン以上の生産容量を持つこととなる。FLNG 設備はドバイの Drydocks World ヤードで組み立てすることとなる。(2025/08/25)

AMIGO LNG 社は、2025 年 8 月 25 日、Macquarie 社との間での長期 SPA (売買契約) を発表した。AMIGO LNG は LNG 年間 60 万トンを Macquarie の Commodities and Global Markets 事業部に 15 年間供給する。LNG 供給は、2028 年下半期のコマーシャル稼働開始を目標とする AMIGO LNG 第 1 液化系列稼働開始とともに開始される見込み。

[中東]

サウディアラビア Aramco は、2025 年 8 月 15 日、Jafurah ガス処理諸設備に関して 110 億米ドルのリース・リースバック契約を、BlackRock 傘下の Global Infrastructure Partners (GIP) が管理する複数のファンドが主導する国際投資家のコンソーシアムとの間で締結したことを発表した。Jafurah はサウディアラビア最大の非随伴ガス開発案件である。2021 年から 2030 年にガス生産容量を 60%増加する Aramco による計画の主要素である。今回の取引の一環として、新たに創設された関係会社 Jafurah Midstream Gas 社 (JMGC) が、Jafurah ガス田処理設備、Riyas NGL 抽出設備の開発・使用権を賃借した後、20 年間に渡りこれらを Aramco にリースバックする。JMGC は Aramco に Jafurah からの生ガスを受け取り、加工、処理する独占権を認める引き換えに、Aramco 支払いの手数料を受領する。Aramco は JMGC の 51%多数権を持ち、残り 49%は GIP を中心とする投資家が所有する。

アラブ首長国連邦 (UAE) アブダビ ADNOC Gas 社は、2025 年 8 月 4 日、インド Hindustan Petroleum 社 (HPCL) と、LNG 年間 50 万トン・10 年間の供給に関する HoA (基本合意) 締結を発表した。本件 LNG は、ADNOC Gas の Das Island 液化設備より供給されることとなる。

アラブ首長国連邦 (UAE) アブダビ ADNOC は、2025 年 8 月 27 日、主に Ruwais LNG

プロジェクトからの年間 100 万トンの LNG を対象として、インド Indian Oil (IndianOil) 社との間で 15 年間の SPA (売買契約) を締結したことを発表した。今回の SPA は、従来の HoA (基本合意) を確定契約に転換する。LNG カーゴはインド国内のどの港湾にも引き渡すことができる。2029 年までに IndianOil は ADNOC にとり最大の LNG 買主となり合計引き取り年間 220 万トン、この内 120 万トンが Das Island 事業より、100 万トンが Ruwais LNG プロジェクトからのものとなるとしている。

イスラエル NewMed Energy 社は、2025 年 8 月 7 日、同国 Leviathan 沖合ガス田開発パートナーは、エジプト向けパイプラインガス供給を増量する「輸出契約修正」に合意した、と述べた。「第 1 段階増量」では、パイプライン増強完了後、年間供給量が現在の年間 4.7 bcm (47 億 m³) から 6.7bcm (67 億 m³) に増加する。「第 2 段階増量」では、計画する拡張プロジェクトが推進されれば、供給量は年間 11.9 - 12.9 bcm (119 - 129 億 m³) まで増加する。発表によれば、これらのプロジェクトは 2029 年に完成見込み。

[アフリカ]

東京都産業労働局とエジプト・スエズ運河経済特区は、2025 年 8 月 21 日、グリーン水素の社会実装化に関する合意書を締結したことを発表した。

中国 Wison New Energies (惠生清洁能源科技集团股份有限公司)、イタリア Eni は、2025 年 8 月 26 日、NGUYA FLNG プロジェクト出港式典を実施した。Nguya FLNG は Eni の Congo LNG プロジェクトの LNG 生産設備である。NGUYA FLNG は、LNG 貯蔵容量 180,000 m³、LPG 同 45,000 m³ を有する。液化容量年間 240 万トンを持ち、コンゴ共和国 Pointe-Noire 近くの沖合に配備される。Wison New Energies は初めて浮体液化設備に CHART 社 IPSMR®液化技術・SPB®タンクを組み込んだ。低カーボン型複合燃料 GTGs エンジン、廃熱回収装置 (WHRU) も組み込んでいる。Tango FLNG (年間 60 万トン) は 2023 年 12 月に生産開始、これまでに 12 カーゴを輸出した。2025 年末までに Nguya FLNG が加わり Congo LNG プロジェクト容量は年間 300 万トンとなる。

日揮ホールディングス株式会社は、2025 年 8 月 25 日、海外 EPC 事業会社である日揮グローバル株式会社がタンザニア連合共和国政府（同国エネルギー省など）と、LNG プラントの知見共有等に係る MOU (基本合意書) を締結したことを発表した。

[欧州・周辺地域]

英 Centrica 社は、2025 年 8 月 14 日、Isle of Grain LNG 基地 (Grain LNG) を Energy Capital Partners LLP (ECP) とのパートナーシップによって、National Grid グループより買収することを発表した。発表によると、追加短期的な価値の創造機会、将来の開発オプションとして、熱電併給 (CHP) 設備、バンカリング、水素、アンモニアを含むとしている。Latham & Watkins 法律事務所は、2025 年 8 月 14 日、ECP・Centrica の 50/50 所有の事業体による Grain LNG 買収に助言を行ったことを明らかにした。

ConocoPhillips 社は、2025 年 8 月 7 日、同年第 2 四半期業績報告の中、フランス Dunkerque 基地で気化契約を締結し、2028 年開始見込み、と述べた。

ドイツ Deutsche Energy Terminal (DET) 社は、2025 年 8 月 28 日、自社ヴィルヘルムスハーフェン第 2 LNG 基地 (FSRU Excelsior を用いる Wilhelmshaven02) が同 29 日商業稼働開始する、と発表した。現地操業は、DET が Gasfin Services 社に委託している。DET はリトアニアの LNG 企業 KN Energies に商業マネジメント、テクニカルな操業、メンテナンスを委託している。

ノルウェー Equinor 社は、2025 年 8 月 25 日、海床下 2,600 m の層に最初の CO₂ を注入・貯蔵されたことを発表した。世界最初のサードパーティー向け CO₂ 輸送・貯蔵設備が稼働開始した。この Northern Lights 合併事業は、Equinor、Shell、TotalEnergies が所有する。開発フェーズ 1 容量は CO₂ 年間 150 万トンである。2025 年 3 月、Northern Lights 所有各社は、容量を累計年間 500 万トン以上に増加するフェーズ 2 の FID (最終投資決定) を行った。ノルウェー政府はフェーズ 1 コストの 80%を引き受けている。

ポーランド GAZ-SYSTEM 社は、2025 年 7 月 29 日、自国初の FSRU 基地設置点となるグダンスク湾の浚渫作業を開始したことを発表した。当該 FSRU 基地プロジェクトは、LNG 積卸、貯蔵、気化設備を建設し、年間 6 bcm (60 億 m³) の天然ガスを確保するものである。当該 FSRU 船舶は韓国のヒュンダイ重工で建造中である。新規基地の稼働開始は 2027 年末・2028 年始を計画している。欧州委員会は、欧州接続強化 (CEF) プログラムにより、LNG Gdańsk プロジェクトの準備作業の資金支援を提供している。支援は最大約 1960 万ユーロとなるとのこと。

[南米]

Golar LNG 社は、2025 年 8 月 6 日、Southern Energy S.A. (SESA) 社が Golar の年間 350 万トン MKII FLNG 備船について、2025 年 5 月締結された SESA・Golar 間の諸契約諸条件で想定された通り、FID (最終投資決定) に達したことを発表した。この 20 年間の備船契約主要条件として、Golar 向けに備船料金年間 4 億米ドル、プラス FOB 価格の 100 万 Btu 当たり 8 米ドルを超える分について 25%のコモディティ連動の料金が含まれる。中国で改造中の FLNG は、引き渡し後アルゼンチンに向かい、契約開始は 2028 年を見込んでいる。MKII FLNG はサンマティアス湾、2027 年に SESA 向け 20 年間備船開始予定の FLNG Hilli 近くに繋留されることとなる。合計で両基の公称容量は年間 595 万トンとなる。SESA は、Pan American Energy (30%), YPF (25%), Pampa Energía (20%), Harbour Energy (15%) のアルゼンチン主要ガス生産企業連合および Golar (10%) により所有されている。MKII FLNG プロジェクトは、引き続き規制承認等の前提条件が付いているが、それらは進展しており 2025 年中に完了する見込み。

シンガポール Seatrium 社は、2025 年 8 月 27 日、Golar LNG 社子会社 Golar Hilli より、FLNG Hilli Episeyo 増強実施の契約を確保したことを発表した。完了後 FLNG Hilli

Episeyo はアルゼンチンサンマティアス湾に配置される。 FLNG Hilli Episeyo は公称容量年間 245 万トン、2027 年に稼働開始予定。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp